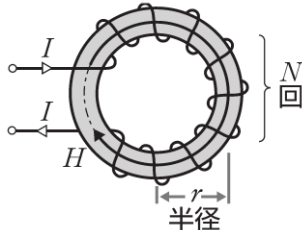
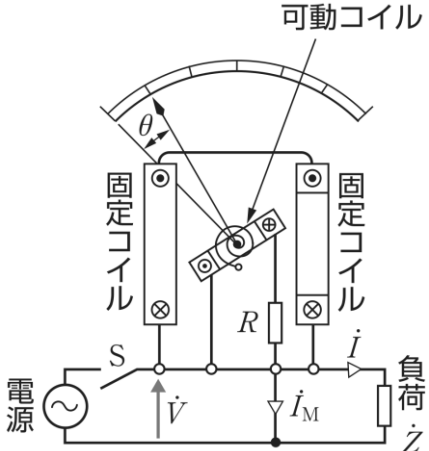
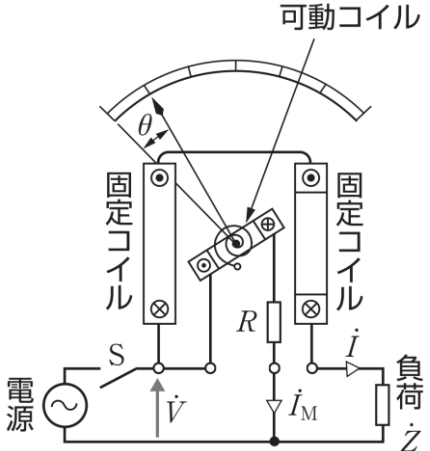


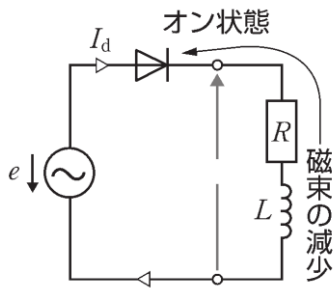
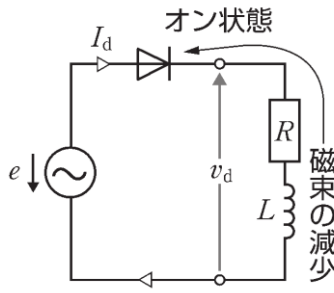
■正誤表

「ポケット版 要点整理 電験三種 4 科目」(ISBN 978-4-274-50586-7)

●平成 29 年 2 月 10 日第 1 版第 1 刷

頁・該当箇所	誤	正
p.8 下から 8～9 行目	コイル, リアクタンス 電流を流すと磁気が発生する要素をリアクタンスといい, …	コイル, インダクタンス 電流を流すと磁気が発生する要素をインダクタンスといい, …
p.57 上から 5 行目	…となり, $\dot{I}_a$ は $\dot{I}_{ab}$ より $\pi/6$ 遅れる. また,	…となり, $\dot{I}_a$ は $\dot{I}_{ba}$ より $\pi/6$ 遅れる. また,
p.57 確認 1 左図		
p.58 上から 2 行目	ab 間の相電流は, $I_{\underline{p}} = \frac{1}{\sqrt{3}} I_a$	ab 間の相電流は, $I_{\underline{ab}} = \frac{1}{\sqrt{3}} I_a$
p.73 左図中の電 圧の関係式	$\underline{I}_M = V_T$	$\underline{V}_M = V_T$
p.73 表の 5 行目	適 性 R が大きいとき R が小さいとき	適 性 R が小さいとき R が大きいとき
p.84 下図		

頁・該当箇所	誤	正
p.30 上から 13 行 目	各コンデンサの電圧が同じ理由	各コンデンサの電荷が同じ理由
p.38 上から 4～6 行目	円筒状に巻いたコイル(ソレノイド) 半径 r [m] で円筒状に N 回巻いたコイルに電流 I [A] を流したとき、コイル中心の磁界の強さは、	円筒状に巻いたコイル(ソレノイド) 長さ l [m]、巻数 N の十分に長いソレノイドに電流 I [A] を流したとき、ソレノイド内部の磁界の強さは、 $H = \frac{NI}{l} = nI [\text{A/m}]$ ここで、$n = N/l$ [1/m] は 1m あたりの巻数である。 環状コイル(環状ソレノイド) 半径 r [m] の環状鉄心に巻数 N でコイルを巻いた環状ソレノイドに電流 I [A] を流したとき、ソレノイド内部の磁界の強さは、 
p.38 上図	図中の r 及び Φ は不要	
P.38 下から 3 行目	確認 1 磁気抵抗は鉄心の長さに反比例し、断面積に比例する。	確認 1 磁気抵抗は鉄心の長さに比例し、断面積に、反比例する。
p.49 上から 7～8 行目	確認 3 RL 並列回路の…, RC 並列回路の…	確認 3 RL 直列回路の…, RC 直列回路の…
p.70 下図		
p.77 上から 14 行 目	$E_x = \dots = 1.8 [\underline{\Omega}]$	$E_x = \dots = 1.8 [\underline{\text{V}}]$

p.201 左上図中の 端子間電圧																																		
p.207 上から 1 行目	過度応答を示す式を…	過渡応答を示す式を…																																
p.212 上から 4 行目	出力装置の 5 大要素からなる. …	記憶装置の 5 大要素からなる. …																																
p.216 真理値表の 5 ～6 行目	<table border="1" data-bbox="290 687 750 848"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td><u>1</u></td></tr><tr><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td><u>0</u></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> $A \cdot B \cdot \bar{C}$					1	1	0	<u>1</u>	0	0	1	<u>0</u>					<table border="1" data-bbox="919 687 1378 848"><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td><u>0</u></td></tr><tr><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td><u>1</u></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> $\bar{A} \cdot \bar{B} \cdot C$					1	1	0	<u>0</u>	0	0	1	<u>1</u>				
1	1	0	<u>1</u>																															
0	0	1	<u>0</u>																															
1	1	0	<u>0</u>																															
0	0	1	<u>1</u>																															
p.261 下から 11 行 目	…ので, (3)案を選択する.	…ので, (4)案を選択する.																																
p.262 上から 13～ 14 行目	… , 18～24 時でそれぞれ $P_{AM}=\underline{600}$ [kW], $P_{BM}=\underline{100}$ [kW] となるので, …	… , 18～24 時でそれぞれ $P_{AM}=\underline{100}$ [kW], $P_{BM}=\underline{600}$ [kW] となるので, …																																

頁・該当箇所	誤	正												
p.91 上から 8 行目	増幅度の計算 入力インピーダンスが <u>零</u> , 増幅度が無限大という……	増幅度の計算 入力インピーダンスが <u>無限大</u> , 増幅度が無限大という……												
p.111 図														
p.122 右下図 (短絡字) 中の数値	<u>5</u> %	<u>100</u> %												
p.148 図中の文字式	$\underline{j}\dot{z}_s \dot{I}_n$	$\dot{z}_s \dot{I}_n$												
p.155 表中の式	<table><tr><td>力率角 θ あり</td><td></td></tr><tr><td>$P = 3\underline{V}_p I \cos(\theta - \delta)$</td><td></td></tr><tr><td>$P = \sqrt{3}\underline{V}_l I \cos(\theta - \delta)$</td><td></td></tr></table>	力率角 θ あり		$P = 3\underline{V}_p I \cos(\theta - \delta)$		$P = \sqrt{3}\underline{V}_l I \cos(\theta - \delta)$		<table><tr><td>力率角 θ あり</td><td></td></tr><tr><td>$P = 3\underline{E}_p I \cos(\theta - \delta)$</td><td></td></tr><tr><td>$P = \sqrt{3}\underline{E}_l I \cos(\theta - \delta)$</td><td></td></tr></table>	力率角 θ あり		$P = 3\underline{E}_p I \cos(\theta - \delta)$		$P = \sqrt{3}\underline{E}_l I \cos(\theta - \delta)$	
力率角 θ あり														
$P = 3\underline{V}_p I \cos(\theta - \delta)$														
$P = \sqrt{3}\underline{V}_l I \cos(\theta - \delta)$														
力率角 θ あり														
$P = 3\underline{E}_p I \cos(\theta - \delta)$														
$P = \sqrt{3}\underline{E}_l I \cos(\theta - \delta)$														
p.204 下から 6～7 行目	②昇圧 <u>チョッパ</u> チョッパ部 Q が <u>オフ</u> のときにリアクトルにエネルギーが蓄積され, <u>オン</u> のときに放出されるので, ……	②昇圧 <u>チョッパ</u> チョッパ部 Q が <u>オン</u> のときにリアクトルにエネルギーが蓄積され, <u>オフ</u> のときに放出されるので, ……												
p.215 上から 3 行目	加法: $1+A=\underline{A}$, $0+A=A$	加法: $1+A=\underline{1}$, $0+A=A$												

2021 年 2 月 15 日, オーム社